

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当	
A-141	A-11C	24-050	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)			
Alcohol rehabilitation and cancer risk: a nationwide hospital cohort study in France アルコールのリハビリテーションとがんリスク：フランスにおける全国病院コホート研究			
執筆者			
Schwarzinger M, Ferreira-Borges C, Neufeld M, Alla F, Rehm J.			
掲載誌			
Lancet Public Health. 2024 Jul;9(7):e461-e469. doi: 10.1016/S2468-2667(24)00107-5.			
キーワード		PMID	
飲酒リハビリテーション、禁酒、アルコール依存症、アルコール関連がん		38942557	
要旨			
背景： 飲酒量ががんの危険因子であることは確立しているが、飲酒量の減少や禁酒とがん発症リスクへの影響の報告は乏しい。アルコール依存症における飲酒リハビリテーションや禁酒のがん発症リスクへの影響を明らかにする。			
方法： 2018-2021年のフランス全国における病院コホート研究を実施した。アルコール依存症において飲酒リハビリテーションや禁酒の、非実施群に比べてアルコール関連がん発症リスクとの関連を、多変量Cox比例ハザードモデルで、交絡因子を調整して算出した。			
結果： 2018-2021年に男性1000万人、女性1400万人が退院した。アルコール依存症は男性65万人、女性22万人で認められた。アルコール依存症はアルコール関連がん（肝細胞がん、頭頸部がん、大腸がん）と強く関連した。飲酒リハビリテーションや禁酒を行った群では、非実施群よりも有意にリスクが低かった（ハザード比、男性0.58、女性0.62）。			
結論： アルコール依存症における飲酒リハビリテーションや禁酒は、明らかにアルコール関連がんのリスクを低下させた。がんリスク低下のためにも飲酒リハビリテーションや禁酒を行うべきである。			